座談会

『若者たちに託す、一人ひとりを大切にする社会へ』

深刻ないじめが大きな社会問題になる中、一人ひとりがかけがえのない存在として大切にされる社会を築くためにどうすればいいのか。次代を担う若者たちへ期待を込めて、有識者の方々に語り合っていただきました。

“いじめ”を許さない、見逃さないために

京都府知事
山田　啓二

わが国の自殺者が14年連続で3万人を超えるという厳しい状況に加え、さらにいじめや児童虐待などによって尊い命が失われる事態が相次いでいます。京都府では、平成21年に「京都府自殺ストップセンター」を設置するなど積極的に対策を推進していますが、より根本的には、「命」がかけがえのないものであるということを私たち一人ひとりがきっちりと認識することなしに、こうした悲しい出来事をなくしていく手立てはないと考えています。

このたび、深刻ないじめ問題の事態を踏まえて、いじめをなくし人を大切にする社会を展望するため、有識者などによる座談会を行いました。その中では、いじめを「する人」・「される人」・「傍観する人」などについて意見が交わされ、次代を担う若者に人権意識を身につけてもらうことの大切さが確認されました。

京都府では、府政運営の指針である「明日の京都」において、誰もが人として大切にされるためには、府民同士がお互いに尊重し合い、つながり、支え合う、人にやさしい社会を実現しなければならないことを基本におきました。今般のいじめの問題についても、いじめは、重大な人権侵害であり、絶対に許さない姿勢に立って、いかなる兆候も見逃さない体制を組み、徹底して取り組んでまいりますので、府民の皆さまのご協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

出席者

京都教育大教授　伊藤悦子氏
京都嵯峨芸術大教授　森本　武氏
京都造形芸術大教授　志賀公江氏
佛教大准教授　岡本晴美氏
京都府教育委員会教育次長　橋本　幸三

司会
京都新聞社　十倉良一論説委員

京都造形芸術大　志賀教授

人権への気づき　京の学生らに

十倉　昨年の東日本大震災では、京都や滋賀も含め、学生を中心として全国の若者たちが被災地に入り、今も支援活動を続けています。困っている人を助けようという気持ちが若者たちにもあることに感心しました。日ごろ学生と接している先生方は最近の若者たちをどのように見ておられますか。

志賀　京都造形芸術大のマンガ学科は創設2年目。京都府と連携した人権啓発事業に昨年は京都ヒューマンフェスタでの似顔絵サービス、人権啓発エコバッグのイラスト作画、今年は「マンガ絵はがき」制作で参加しています。自分の楽しみだけで描いてきた漫画で人の役に立てる、人を喜ばせることができるという実感は学生に自信を与え、生き生きさせます。最近は、一見クールに見えても実はシャイで人間付き合いの苦手な学生が多いようです。

じんけんぬりえ

京都嵯峨芸術大　森本教授

森本　京都嵯峨芸術大では平成18年度からデザイン学科の学生たちが「じんけんぬりえ」「じんけん絵本」など、人権啓発グッズの制作に取り組んできました。人権に関する知識の乏しい学生たちに人権意識を高めるデザインづくりをさせるのは無謀なようですが、自分の知識の限界を知り、理解しようと努力する過程が大切だと考えてのことです。

学生たちは提案を採用してもらおうと真剣そのもの。デザインが金もうけだけの手段ではなく、社会問題の解決に貢献できる技術だということに気付かせる貴重な機会を頂いています。

マンガ絵はがき

岡本　若者の力に期待できると改めて実感したのは、京都府が平成21年度に設置した人権啓発学生サポーター会議でコーディネーターを務めさせていただいた時です。この取り組みは、若者自身が若者層への人権啓発の手段を開発することを目的としていました。

初年度は府内8大学から14名の学生が参加。若者が人権問題を身近に感じられる施策として、人権啓発コンサートなどの開催を提案しました。私が一番うれしかったのは、会議自体が学生サポーターにとって人権を学習する機会だということに、彼ら自身が気付いてくれたことです。

伊藤　京都府が昨年実施した人権に関する府民の意識調査を見ると、大多数の若者は差別や人権侵害がいけないことを理解していますが、意識の低い若者の存在が気になります。「企業は不況時に障害者を雇用できなくてもやむを得ない」と考える若者は他の年代に比べて多く、自分の利害に関わる場面では的確に判断できないことが読み取れました。

身近な”いじめ”傍観者にならない

十倉　現代の若者は早くから身近に「いじめ」を経験しています。今、大津市のいじめ事件が全国的に大きな問題になっていますが、いじめを減らすには何が必要ですか。

京都教育大　伊藤教授

岡本　私は子どもへの暴力防止・人権教育プログラムCAP（Child Assault Prevention）の活動に参加しています。CAPでは子どもたちを被害者にも加害者にも傍観者にもさせないことを目指しています。問題を抱えて相談に来たある子どもに「相談できる人はいるの」と尋ねると「教頭先生。担任の先生は忙しいから」と答えてくれました。担任の先生を責めるのではなく、先生同士が情報を共有し、複数の目で子どもを見守るような環境を整えることが大切です。子どもの抱える問題は複雑・多様化し、子どもの発するサインも一様ではありません。多様な職員がいる学校だからこそできる支援の在り方を今こそ見直すときではないでしょうか。

橋本　いじめは、いじめられる側の人間としての存在を否定する、重大な人権に関わる問題です。どの学校でも、どの子にも起こり得る問題だという共通認識を全ての教育関係者が持ち、いじめを許さない学校環境づくりを進めることが必要です。府教委では、ふれあい・すこやかテレフォン、メール教育相談、スクールカウンセラー、ネットいじめ通報サイトなどで対応してきましたが、より一層の対策強化を図るため7月末、庁内に「いじめ対策検討チーム」を結成しました。いじめ対策マニュアルの全面的見直しのほか、児童生徒に相談窓口を記したクリアファイル、保護者に子どもの態度からいじめの兆候をつかむ「いじめサイン」のチェックリストを配布するなど、いじめの早期発見、早期対応に努めます。

京都府教育委員会　橋本教育次長

若い主体性生かす場を

伊藤　府民調査の結果から、人権研修会やイベントなどへの参加経験者は人権理解が深まっており、研修などの成果が確認されています。問題は研修などへの参加者が少ないことです。参加機会の拡大とともに小中学校での人権教育の充実に期待が寄せられています。

多くの若者に、生身の触れ合いが少なく当事者意識に欠けるという自覚はあるようです。人権理解には実践的な活動が有効なことも分かりました。若者が参加したくなるイベント、差別を受けた当事者から話を聞くような機会を増やすことが重要です。

HUMAN LIVE KYOTO 2011学生サポーター

佛教大　岡本准教授

森本　私たちは物事を善悪という対立図式で捉えがちですが、社会には境界があいまいなものもあります。「慈悲から人権へ」という私の授業では、慈悲とは何かと学生に問い掛けるところから始めます。学生たちは仏教用語を調べたり哲学書を読んだりしながら議論を重ね、考えをまとめます。

サンキューメッセージ

人権教育も知識として言葉で教えるだけでは不十分です。学生自身が主体的に関わり実感できるような体験をすることで、他人のことを自分と同じように尊重し、行動できるようになるのではないでしょうか。

志賀　漫画家などの表現者は、言いたくても言えない人の気持ちを代弁する使命を担っています。批判を恐れて表現を自主規制してはならないと思いますが、他者の人権を侵害する差別表現は絶対に許されないと指導しています。

今の若者は、次々と敵を倒していくようなゲームに囲まれて育ちました。学生たちに、たとえゲームであっても、倒す相手にも命や心があることを表現できるのがプロの漫画家だと教えるのが、私の役目だと思っています。

十倉　人権感覚を身につけた若者が増えれば、いじめを減らし、人権を大切にする社会の実現につながっていくと思います。

岡本　学生サポーター会議の提案を具体化したのが、学生が企画・運営する音楽イベント「HUMAN LIVE KYOTO」です。3回目の今年は「ひろがるひとの和　命（こころ）のぬくもり」をテーマに、9月7日に京都駅ビルで開催されます。

より多くの若者を巻き込むため、今年は学生バンドの出演を企画したそうです。ステージだけでなくブースにも足を運んでもらえるよう、ステージ上で学生がブースを紹介するなど、学生たちは「一体感」をキーワードに準備を進めています。学生だけでなく、多くの方の参加をお待ちしています。

企画・制作／京都新聞COM

HUMAN LIVE KYOTO 2012

京都駅ビル
室町小路広場

9/7日(金)
15:30～19:00

テーマ
ひろがるひとの和　命（こころ）のぬくもり

●スケジュール
15:30～ Baby's Breath
16:00～ 拝郷メイコ
16:30～ オトノハネ プロジェクト
17:00～ おかん
17:45～ IMALU
18:30～ エンディング

入場無料

展示ブース　13:00～17:00　駅前広場
●サンキューメッセージ大募集　～ありがとうを伝えたい　大切なあなたへ～
●エコキャッププロジェクト　～大きな命　小さなキャップから～
●東日本大震災　そして、僕らにできること。～3.11を境に生活が変わった～
●児童福祉　Kids 大丈夫　～みんなで　支える　親子の絆～

ホームページ　http://www.humanlive-kyoto.com
主催　HUMAN LIVE KYOTO 2012学生サポーター
共催　京都人権啓発推進会議
問い合わせ先　075-414-4271（京都府人権啓発推進室）